

以前よりの町名なる事知られけり。三州志來因概覽附録にも、尾山八町は佐久間氏本名と定むる名目なり。所謂八町中の材木町は、此の時今の紺屋坂邊にありといへり。

○館紺屋四郎兵衛傳

三州志來因概覽附録に云ふ。古へ城外紺屋坂の邊に、館紺屋として染工あり。此の染工の先祖は高桑備後と云ふ賊魁にて、石川郡割出村に居館す。天正八年信長公賊將征伐に付き、備後の子五郎と云ふ者、河北郡森下に至り染工をなし、世人館紺屋と呼べり。其の子孫十郎に至りて、高德公慶長三年卯月廿一日、染物向後森下紺屋孫十郎一人に命ぜらるゝよし印書を賜ひ、同五年五月廿七日金澤紺屋頭に命ぜらるゝよし、瑞龍公の親簡ありて、此の頃森下より金澤へ出で、紺屋坂邊に家作して居す。公高岡へ遷らせらる時、孫十郎従ひ行き、高岡にて染工に宜しからんとて、千保河邊烟草町にて方五十間の居地を賜ふ。公薨後金澤へ歸る處、紺屋坂邊の舊邸既に官地と成る。依之易地賜はるまで、味噌藏町の味噌部屋に暫く置かせられ、其の後材木町焼失にて、材木町を田井口へ移されたり。此の頃までの材木町は

城際でありしと云ふ。則ち田井口材木町にて方十間の易地を賜へり。是今の館紺屋四郎兵衛が居宅の地なり。四郎兵衛は即ち高桑備後より血脉相續して今に至ると云ふ。此の家族館紺屋新助家より中古後見せし事ありて、高德公・瑞龍公等の親簡眞蹟の分は新助方に傳來し、四郎兵衛家には寫のみなりといへり。其の寫等は紺屋坂の條に載す。

○大桑善福寺

東派眞宗道場也。當寺本堂は土藏造なり。貞享二年の由來書に云ふ。當寺開基、文安二年本願寺七世存如上人之末子順光、石川郡大桑村に建立。慶長六年材木町今の地へ移轉すとあり。或は云ふ。今大桑村に御坊屋敷と稱する地二ヶ所あり。一所は則ち善福寺の舊地、一所は川上新町德善寺の寺跡にて、中にも善福寺は甚だ古刹也と云ふ。舊傳に云ふ。善福寺は往古は大桑山救世觀音寺と號し、四宗兼學の舊地にて古刹なりしが、文明年中蓮如北國下向の頃、彼の宗義に歸依して遂に弟子と成り、寺號をも改めて善福寺と稱せり。彼の川上新町なる德善寺も、そのかみ救世觀音寺の坊中なりしかど、是も同じく改宗して後金澤へ出で、今

に大桑御坊と呼べり。依りて大桑の一村は、邑民残らず善福・德善兩寺の門徒なりしも、兩寺共にも大桑村にありし故なりといへり。按ずるに、德善寺由來書には、永祿二年德善と云ふ僧大桑村に建立後、金澤川上新町へ移住すとありて、貞享二年の由來書には、大桑村德善寺と記載し、三箇屋版六用集にも大桑村とあり。蘭山私記に云ふ。明和七年六月高辻前大納言殿、信州善光寺參詣之由にて金澤通行、材木町一向宗善福寺に旅泊被致、四・五日滯留す。在留中詩歌あり。

善福堂中拂旅愁。夏天也叫暑炎浮。草薰明月生涼氣。自識上人慈愛稠。

右席上謝善福上人。

白山の峰に残れる雪の色の

ゆたけき國の光みすらん

右は白山を讀めり。

○又五郎町

材木町の横小路なり。横山又五郎の居邸ある故に呼べり。

○横山又五郎政賢傳

加陽諸士系譜に云ふ。横山半喜長隆の孫山城守長知の三男式部長治の三男式部氏從、加恩共五千三百石を賜はり、其の子兵庫長元三千五百石賜はる。男子ありといへども、同姓正武の嗣子と成る。依りて神谷内膳三男昌行を嗣子とし、外記と稱し家督を繼ぐ。無子、山崎縫殿の三男又五郎政賢を養嗣子とし、明和二年遺跡を繼ぎ、遺知三千五百石賜はり、同八年算用場奉行と成り、安永六年寺社奉行、公事場奉行兼勤、同七年四月若年寄役、寛政九年十月家老役と成り、若年寄兼勤、執政席加判、文化四年正月致仕、休料七百石賜はり、名を伴隨と稱す。同六年九月六日歿す、享年七十二歳。

○辰巳橋

金澤橋梁記に、辰巳橋横山又五郎横。とあり。此の橋は横山氏邸地の横なる江川の小橋なり。いかなるよしにて辰巳橋と呼びたりけん。

○八兵衛小路

或は云ふ。材木町六丁目の小路を七兵衛小路と呼べり。従前此の小路に藩士神尾氏の居邸あり。神尾氏の先代八兵衛